

平成22年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	町民の日記念式典事業				開始年度	昭和41年	
基本目標	町民が参画できる体制づくり				終了年度		
担当課(局)	総務課	担当係	行政係	記入者	増田 浩史	評価者	間 省二
21年度決算	195	千円	22年度予算	167	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	729 千円		22年度人件費	723 千円		事業従事者数	0.10 人 0.10 人

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	昭和13年10月1日に旧高鍋町と旧上江村が合併し大高鍋発展の礎をつくった意義のある日を町民の日と定め、式典を挙行し、高鍋町民であることの誇りを再確認する。
事業の内容	町行政功労者への表彰、感謝状の授与

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 参加者数	より多くの町民に参加してもらい、町民の日の意義を認識してもらう。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 被表彰者選考委員会	被表彰候補者のうちから、被表彰者を選考
	2	
	3	

◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度	
成果指標	参加者数	目標値	200	200	200	
		実績値	150	200		
		達成率	%	75.0%	100.0%	
	0	目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	被表彰者選考委員会	目標値	1	1	1	
		実績値	1	1		
		達成率	%	100.0%	100.0%	
	0	目標値				
		実績値				
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
0	目標値					
	実績値					
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!		

◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	町が行うべき事業である。 事業目的上は、その必要性は十分に高いと思われるが、式典の認知度がそれほど高くない現状では、事業廃止による影響もそれほど生じないと思われる。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	現状では、町行政功労者への表彰等の授与が事業の中心となっていることから、事業目的に合致した成果が得られているか疑問が残る。 改善のためには、事業そのものの根本的な見直しも視野に入れた議論が必要である。
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	事業の実施に当たっては、常に効率性を重視しており、経費や時間の削減余地はほとんどない。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	「式典」をどのように捉えるかにもよるが、事業形態によっては協働による実施も可能であると思われる。

事務事業名	町民の日記念式典事業	担当課(局)	総務課
-------	------------	--------	-----

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	町民に10月1日は町民の日である意識掲揚に努め、式典も毎年行なうため、マンネリ化しつつある。形式等を検討していかなければならない。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持			○	
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎「町民の日＝10月1日」という意識を町民に周知しないと、記念行事の意味合いも薄れてしまう。22年度は口蹄疫で見送ったが、もう少し価値あるものとして位置づけるために23年度からの有り方を検討する必要がある。
	コスト	現状維持	◎「町民の日」を町民に認識してもらうには、10月1日は町立小中学校を休みにするなど、思い切った対応が必要ではないか。 ◎式典に参加しやすい日程の設定など式典自体の見直しが必要と考える。